

議会報告会での意見・要望等 《地域からの広聴分》

○市庁舎整備について

市庁舎整備事業については、市民の声を広く聴き、市民理解を得ながら丁寧に進められたい。

また、建設に当たっては昨今の物価や人件費の高騰を踏まえ、事業費縮減につながる見直しなどに努められたい。

(回答) 【企画総務部】

市庁舎整備事業については、これまでも多様な市民参加の機会を提供し、広くご意見を伺ってきたところです。

具体的には、市民アンケート、今後の方向性周知と新・基本方針意見聴取のための職員出前講座、新・基本方針および基本構想策定時のパブリックコメントを実施するとともに、令和6年3月からの基本構想策定審議会に公募市民に参加いただきました。本年度からは基本構想周知のため出前講座等を行い、ホームページ・広報・FMたんなどを通じた情報発信にも努めています。今後は、基本計画策定の進捗により、新庁舎の概要や事業費の見通しなどが素案としてまとまった段階において、市議会へ報告を行うとともに、説明会の開催も含め、広く市民にその内容をお知らせし、ご意見を伺っていく取組を進めてまいります。今後も適切に情報提供を行うとともに、市民のご意見を伺いながら丁寧に事業を進めてまいります。

新庁舎は将来の維持管理費も考慮し、市民サービスの向上と業務効率化を実現するため、機能的でコンパクトなものとする考えです。基本計画の策定にあたっては、利用者の声を反映しながら、整備面積や階数などを精査することで、事業費削減を目指します。また、庁舎の規模や事業手法を慎重に検討するとともに、庁舎建設のための基金の積立てに加え、国の補助金や有利な起債等を十分活用することにより、できるだけ本市の財政運営に影響がないよう努めてまいります。

議会報告会での意見・要望等 《学生との意見交換分》

○公共交通の充実について

公共交通の充実については、バスやタクシーの数が少なく通学やレジャーにおいて不便であることから、事業者と協議し、バスの増便やタクシーの台数増を図られたい。

また、高齢者等の移動の利便性向上や社会参加促進の効果も期待されることから、高齢者の生活を支えるための新たな交通サービスの検討を図られたい。

(回答)【都市整備部 保健福祉部】

本市の公共交通の現状としましては、鉄道と路線バスによる人口カバー率が8割を超えており、周辺市町と比較しても高い状況にあります。一方で、自家用自動車への依存の高まりや人口減少に伴う利用者の減少、さらには運転手不足により、鉄道や路線バスの減便、タクシーの台数減少といった課題が生じているところです。

有明高専行路線バスの朝の混雑やお出かけの際のご不便につきましては、平日の通学利用者の多い時間帯や土日祝日等で多くの利用が見込まれる際の運行ダイヤの見直しについて、交通事業者へ要請してまいりたいと考えております。

また、タクシーにつきましても、需要の高い時間帯における台数の確保を交通事業者へ要請してまいりたいと考えております。

引き続き、事業者と連携しながら、公共交通の確保と充実に努めてまいります。

次に、高齢者向けのデマンド交通や乗り合いバスのようなサービスの導入に係る取組といたしましては、倉永校区の生活循環バス、三池校区の三池サンキューバス、玉川校区の玉川公共ライドシェアといった地域主体の取組に対し、支援しているところです。今後も、公共交通でカバーされていない地域につきましては、その地域の特性やニーズに応じた移動手段の導入に向けて地域とともに検討を進めてまいります。

そのほか、高齢者の生活を支える観点から、宅配サービスや移動販売、医療分野における訪問診療等の事業所を紹介するなど、移動が制約される方々の生活

支援に向けた取組を行っています。

また、少子・高齢化対策に係る公共交通インフラ整備やバリアフリー化（バス・電車）につきましては、高齢者や障害者をはじめ誰もが安全・安心に路線バスや電車を利用できるように、交通事業者へ要請してまいりたいと考えております。

今後も高齢者をはじめ地域で暮らす誰もが安心して移動でき、日常生活を維持することができるような公共交通サービス体系の構築を目指してまいります。

○インフラの整備について

インフラ整備については、通学路の道幅が狭く自転車などの通行が危険な箇所もあるため、道幅を広くするなど安心して通行できる道路とされたい。

また、歩道についても歪みや縁の段差などによる自転車や高齢者の転倒の危険が心配されることから、ユニバーサルデザインの視点で整備されたい。
加えて、雑草の繁茂により道幅が狭くなるなど、視界を遮り危険であることから改善されたい。

(回答)【都市整備部、まちなか活性化推進室】

道路や歩道の整備にあたりましては、市民の皆様が安全で快適に通行できる道路空間の確保が必要であると認識しております。

道路拡幅のための整備には、多額の費用と用地取得などの課題があることから、まずは路面標示による速度抑制表示や注意喚起、カーブミラーの設置など、即効性のある安全対策を優先的に実施し、事故防止に努めてまいります。その上で、中長期的な視点からは、交通量や危険性を総合的に勘案し、優先順位を付けながら計画的な道路整備を検討してまいります。特に、通学路など学生の利用が多い路線については、優先度の高い路線として位置付けてまいります。

次に、歩道の歪みや縁石の段差による転倒の危険性につきましては、適切な維持補修を行ってまいります。また、歩道の改良等を行う際には、利用形態や状況を踏まえ、すべての市民が安心して通行できるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた整備に努めてまいります。

一方、雑草の繁茂により道幅が狭くなり、視界を遮っているとの御指摘につきましては、定期的なパトロールにより、必要に応じて草刈りを実施してまいります。

また、この点に関しましては、帝京大学の学生の皆様から草刈りボランティアへの参加意向を示していただいていることから、今後、大学側と道路愛護に対する協力について御相談をさせていただきたいと考えております。

次に、大牟田駅周辺の開発と福岡市とのつながりにつきましては、本市の玄関口であるまちなかの魅力向上が重要であると考えております。現在、西鉄新栄町駅前地区において市街地再開発事業の検討が再開発準備組合で進められており、市としましても事業化に向けてしっかりと支援してまいります。さらに、大牟田

駅と新栄町駅の間のみちなかエリアにつきましては、既存ストックを活かしたリノベーションまちづくりによる大牟田らしい魅力にあふれる街並みづくりと賑わい創出の取組を進めているところです。

あわせて、コンパクトなまちづくりの実現につきましては、本市の立地適正化計画に基づき、中心市街地をはじめとする市内の各拠点に医療・福祉・商業などの生活サービス機能とその周辺に居住機能を誘導し集約することで、市民にとって便利で、歩いて暮らせるまちの形成に向け取り組んでまいります。

以上のような整備を総合的に進めるにあたっては、若者の視点を取り入れながら、誰もが快適で魅力ある都市生活を送ることができるまちづくりを目指してまいります。

○安全安心のまちづくりについて

安心安全のまちづくりについては、通学路に街灯が少ないこと、また交通事故防止や防犯の観点からも街路灯や防犯カメラを設置されたい。

(回答)【市民協働部、企画総務部】

市内に設置されている防犯灯は、交通安全や犯罪防止、さらには街を明るくするために町内公民館や自治会などの地域のみなさんがお金を出し合って設置され、市でも設置費の支援を行っているところです。

5年前に約8,300基ありました防犯灯は、令和7年12月現在で約8,900基にまで増えております。

これらの防犯灯設置の取組は、隣近所のコミュニティの形成や維持、発展を促す契機として役に立っていることから、大牟田市では、設置費の補助に加え、電気料金の公費負担にも取り組んでいるところです。

また、帝京大学福岡キャンパスをはじめ、イオンモール大牟田や諏訪公園、ルートインホテルなどが立地する岬町地区におきましては、ライティングの手法を用いた地域全体の魅力創出に向けた取組を進めており、夜間の回遊性の向上をはじめ、防犯や事故防止の面での効果も期待できるものと考えております。

さらに、防犯カメラについては、地域が設置する防犯カメラに対する補助を新たに実施し、設置を促進したいと考えており、来年度予算案に計上する予定です。

本市といたしましては、今後も安心安全のまちづくりを広げていくため、引き続き、取組を進めてまいります。

○空き家対策について

空き家対策については、リフォームするなどして、カフェや勉強できる場所、シェアハウスなど若者が集まる場のほか、イベントの開催場所や災害時の避難所、休憩の場として活用し、市街地以外の場所では高齢者のためにも空き家を買取ができる場とするなど、柔軟な活用策を検討されたい。

(回答)【まちなか活性化推進室、産業経済部、都市整備部、防災危機管理室】

本市では、店舗改修の補助事業により、空き家や空き店舗への新たな出店等を促進し、賑わいの創出に取り組んでまいりました。

これまでに中心市街地（100ha）では、この支援を活用した新たな出店が47件なされ、最近では、大牟田駅周辺においてスイーツ店やカフェなど、若者や家族連れが集まるような出店も見られています。

また、市内全域におきましても、創業支援や店舗改修の補助事業等によって、新規出店や個店の魅力アップによる事業継続への支援に取り組んでいるところです。

さらに、令和8年度からは、「空き家活用リフォーム等支援事業」としまして、リフォーム工事に要する費用の1/2（限度額50万円）を補助する事業を開始する予定としており、「空き家の流通・活用の促進」にも取り組んでいくこととしております。

こうした取組を進める中、まちなかエリアにおける空き家・空き店舗については、そのレトロな雰囲気も評価され、様々な民間プレーヤーによる古物件のリノベーションが進められております。また、市が支援する大牟田わかもの会議やアーバンデザインセンターおおむた（UDC）もプロジェクトとして、空き物件のリノベーションに取り組むなど、空き家の再生の機運は高まってきているものと考えております。

これらを活かして、空き家や空き店舗が、オフィスやカフェ、勉強できる場所、シェアハウスなど若者が集まる場のほか、イベントの開催場所や休憩の場など、まちに賑わいをもたらす様々な用途として活用されるよう、所有者と利用者のマッチングを行うなど、UDCをはじめとした民間プレーヤーや大牟田わかもの会議等との連携を図りながら、取組を進めてまいりたいと考えております。

また、新栄町に若者が集まる場所としてカフェや公園がほしいとの御意見につきましては、新栄町駅前の再開発事業の計画作成が進められておりますので、検討を行っている再開発準備組合へ御意見を伝えるとともに、市といたしましても支援を行ってまいりたいと考えております。

なお、空き家の避難所としての活用は、平常時利用が可能でも、物件の立地（浸水想定区域・土砂災害警戒区域）や耐震性・安全性等、解決すべき課題も多いと考えられることから、慎重に検討すべきであると考えています。

○情報発信について

情報発信については、大牟田駅周辺や新栄町駅前の開発などのまちづくりの情報が、市民や学生の目には見えていないため、見える化を図り、若者に届くよう広報力を強化されたい。

（回答）【[まちなか活性化推進室](#)、[企画総務部](#)】

大牟田駅周辺については、おおむた再生未来ビジョン（R6.3策定）に基づき、現在UDCで取組の検討が進められており、今後、関係者との調整等を行い、計画の作成が行われる予定です。

また、新栄町の再開発については、様々な関係者との協議・調整が行われており、今後、施設計画や資金計画の取りまとめが行われる予定となっています。

いずれの事業についても、今後の進捗に伴い、公表が可能となった段階で、大牟田駅西口の#REStationや、東口のデジタルサイネージをはじめ、広報おおむた等の様々な媒体を活用しながら、積極的に情報発信してまいりたいと考えております。